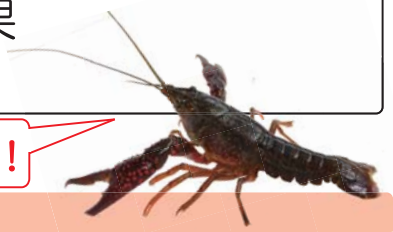
東京都足立区桑袋ビオトープ公園における
一般来園者によるアメリカザリガニ駆除活動の成果

池上 沙樹，山下 正哉（足立区桑袋ビオトープ公園）



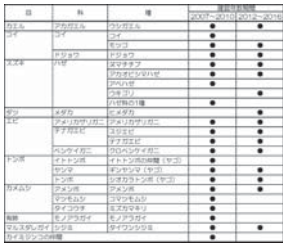
ザリガニが増えて困った！沢山捕まえるために、こんなことしました！

1. 背景

1-1. 桑袋ビオトープ公園の概要

- 2005 年 5 月より小学校跡地に開園した都市公園。
- 様々な生き物が生息できるようなビオトープとして公園管理を実施している。（例：野生生物に配慮した植生管理、外来種駆除等）
- 1 年に 1 回、ため池の水生生物調査を実施している。ため池には、モツゴ等の魚類、ヤゴ等の水生昆虫等の生息が確認されている。

公園内のため池の様子

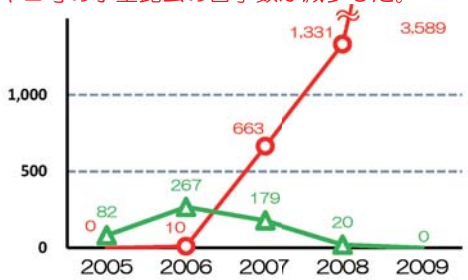


目	科	種	調査実施年 2007～2010	調査実施年 2012～2015
カエル	アカガエル	ウシガエル	●	●
コイ	コイ	コイ	●	
		モツゴ	●	●
	ドジョウ	ドジョウ	●	●
スズメ	ハゼ	スマチチブ	●	
		ヌカメゴシマハゼ	●	●
		クロハゼ	●	
		ウキゴリ		●
		ハゼ科の1種	●	
ダツ	メダカ	ヒメダカ		●
エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	●	●
	テナガエビ	スジエビ	●	●
		テナガエビ	●	●
	ヘンケイガニ	クロベンケイガニ	●	●
トンボ	イトトンボ	イトトンボ亜目（ヤゴ）	●	
	ヤンマ	オニヤンマ（ヤゴ）	●	●
	トンボ	シオカラトンボ（ヤゴ）	●	●
カメムシ	アメンボ	アメンボ	●	●
	マツモムシ	コマツモムシ	●	
	タイコウチ	ミズカマキリ	●	
甲殻	モノアラガイ	モノアラガイ	●	
ウルスギガイ	タイワンシジミ	タイワンシジミ	●	●
ケイトウジュウ目			●	

水生生物調査によって確認された生物種

1-2. アメリカザリガニの生息状況及び公園に生息する生物の変化

- 2006 年に初めてアメリカザリガニ（以下、ザリガニ）の生息が確認された。
- ザリガニの増加に伴い、ため池でアサザの生育面積の減少やハゼ類、ヤゴ等の水生昆虫の目撃数が減少した。



ため池におけるザリガニの捕獲数（個体数）とアサザの生育面積（m^2）の変化

2. 方法

2-1. アメリカザリガニの駆除活動

- ザリガニの個体数の増加に伴い、対策として来園者が参加する駆除活動「ザリガニ調べ」を開始した。

ザリガニ調べの実施内容

○目的　：ザリガニの生息密度の低下、外来種問題の普及啓発
○実施期間　：2009 年 8 月～継続中
○実施日時　：開園日 9:30 ～ 11:30、13:00 ～ 16:00
○使用する道具：竹竿、餌（スルメ）、バケツ　※貸し出し
○捕獲方法　：餌としてスルメを用いた釣り

□外来種問題の普及啓発について
- はじめて参加する人にザリガニや外来種に関するクイズを実施する。

⇒ザリガニの生態や外来種について学ぶことで外来種問題に関心を持ってもらう。

□捕獲されたザリガニの処理方法について
- 全て公園側で引き取り、同区内にある「足立区生物園」にてエサとして活用する。

⇒餌資源としての有効活用及び捕獲された個体の再放逐の防止。

ザリガニ調べの様子

捕獲されたザリガニ

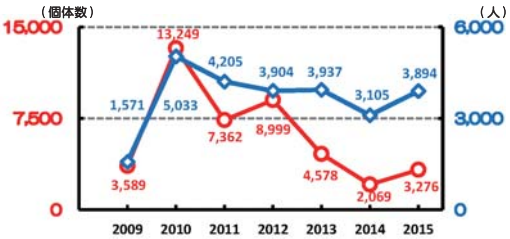
ザリガニクイズの内容

2-2. 水生生物調査

- 毎年度、水位を減らしたため池の中に入り、タモ網やサデ網を用いて水生生物を捕獲した。
- 捕獲数の多い生物種について、年度別に集計した。

3. 結果

- 2009 年 8 月から 2016 年 3 月までの延べ参加人数は 25,649 人となり、総捕獲数は 43,122 個体になった。
- 2010 年度に捕獲数が最大になり、以降は増減を繰り返しながら徐々に減少している。
- 水生生物調査では、2013 年度にスジエビの捕獲数が増加している。



ザリガニ調べにおける年間の参加人数と捕獲数

生物種	調査実施年 2009	2010	2012	2013	2015	2016
モツゴ	2,170	961	3,055	261	143	86
ウキゴリ	0	0	1	16	14	4
ヒメダカ	0	0	1	150	53	359
スジエビ	0	7	35	800	233	142
ウシガエル	50	530	186	14	51	32

年度別の水生生物調査結果
赤字：捕獲数が前年より増加　青字：前年より減少

4. まとめ

- ザリガニの捕獲数について、2012 年度より参加人数が 3,000 ～ 4,000 人の間で推移したまま、捕獲数が大きく減少しているため、継続的な捕獲圧をかけることで、個体数を減少させることができたと考えられる。
- ザリガニの捕獲数が 4,000 匹以上、減少した 2013 年度に、スジエビの捕獲数が増加している。ザリガニの駆除活動によって、ため池の生物相に変化が起きていると考えられる。